

●コミュニティ学習センターネットワークおよび連携を通じた地域開発に関する アジア太平洋地域ワークショップの報告

松本大学総合経営学部・観光ホスピタリティ学科 教授 白戸 洋
助教授 柳沢 聡子

地域総合研究センターの今年度の研究課題の一つである、表記ワークショップについて、担当した白戸・柳沢がその活動報告を行う。

1) 背景

アジア太平洋地域では、地域社会や大人、若者、子供などすべての世代にとって、様々な形の学習を学校外において行うための組織の充実を推進するために、1998年よりコミュニティ学習センター事業が、ユネスコバンコク事務所の APPEAL (Asia-Pacific Programme of Education for All) によって展開されている。特に識字を中心とした教育機関として大きな役割を果たしてきた。2006年現在、コミュニティ学習センターは、アジア太平洋の23カ国に導入されており、アラブ諸国、アフリカにも広がっているが、多くの国の厳しい財政状況から、住民、地域、行政が共同して学習環境を組織的に向上させる、という手法は、現実的かつ有効な戦略として受け入れられている。さらに各国の社会環境の変化を背景に、識字にとどまらず、コミュニティ学習センターが、地域開発を調整する地域の枠組みとして機能するよう、他の機関との連携、ネットワーク強化の必要性が課題とされている。

2004年、日本政府による EFA 信託基金により、この分野における地域プロジェクトが実施され、そのひとつとして開催された2004年9月のユネスコ - JICA の生涯学習シンポジウムの一環として、松本地域公民館活動の現状視察が行われた。その際に新村地区公民館と本学が連携して公民館の活動を展開している現状に対して、参加者から強い関心と共感が寄せられた。

その結果、2005年9月に、インドネシア、バンドンにおいて開催された、アジア地域ワークショップにおいては、松本大学から柳澤聡子専任講師が出席し、新村の公民館と大学の連携による地域づくりについて発表を行った。この会議では、コミュニティ学習センターと多様な機関とのパートナーシップの形成、例えば、政府、NGO、大学、民間、企業との協力について、事例報告、現地視察などを通し、モデルネットワークの経験の共有、国およびアジア太平洋地域レベルでのネットワーク形成などの可能性が、議論、検討されたが、本学の実践例に対して、参加者から高い評価と関心が集まった。そして、公民館の現状、成果だけでなく、その運営、事業実施過程について詳細に学びたいとの意見が多数出され、こうしたアジア諸国の要望にこたえるべく、ユネスコバンコク事務所のサポートを得て、コミュニティ学習センター (Community Learning Centre= CLC) ネットワークおよび連携を通じた地域開発に関するアジア太平洋地域ワークショップが開催されることとなった。

2) ワークショップの目的

松本市においては、過去60年余にわたり、地域で公民館活動が展開されてきた。特に松本では、松本市全域ではなく、合併前の旧村や都市部においては小学校区を範囲とした生活圏に公民館を設置し、単なる学習にとどまらない、生活や産業まで含んだ地域づくりを活動の中核に据えてきた。したがって、ワークショップでは、より総合的な地域づくりに CLC を活かしていくかという観点から、松本における実践を体験し議論を行なうこととなった。さらに松本市では、行政が設置した30余館の地区公民館に加え、コミュニティ単位に住民が自ら運営する自治型の町会公民館が400近

く活動を行っており、住民が参画した CLC のあり方も重要な研修テーマとなった。

ワークショップの主な目的は、ユネスコ APPEAL 事業との協力により、アジア諸国における CLC の識字、生涯教育を通じた地域開発および連携について、コミュニティ、市町村、県、国レベルの強化戦略について、議論、検討を行い、具体的提言、行動計画を作成することである。具体的には、以下の通りである。

- ① 参加各国の CLC の連携、ネットワークの現状と課題について、経験を共有する
- ② 日本の公民館の事例研究を中心に、参加各国の CLC と公民館の相違点、強み、弱みを見極め、地域ネットワーク強化のための戦略をまとめる
- ③ 効果的な CLC のアジア太平洋地域ネットワーク構築のための、共同計画案を作成する
- ④ 国別に今後の行動計画を立てる
- ⑤ 公開シンポジウムを通して、会議の成果を広く周知する

3) ワークショップの概要

ワークショップは、松本大学及びユネスコ・アジア文化センター（ACCU）の主催で、ユネスコバンコック事務所、松本市、松本市教育委員会、塩尻市塩尻東地区公民館、松本市町内公民館長会、松本市蟻ヶ崎西区町会、松本市巾上西町会、アルプス善意通訳協会の協力の下開催された。

プログラムは2006年8月2日（水）から2006年8月8日（火）までの合計7日間の日程で行なわれ、アジア太平洋地域の14カ国（バングラディッシュ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、カザフスタン、ラオス、パプアニューギニア、フィリピン、スリランカ、タイ、ウズベキスタン、バングラディッシュ、ベトナム）から政府の政策担当者及び専門家、ユネスコ関係者など、36名が参加して開催された。また国内からも国際協力機構や教育政策研究所など国内機関から7名が参加し、地元からも、松本大学98名（教職員30名 大学生68名）、松本市・松本市教育委員会・各公民館関係者：62名（参加者48名 講師14名）が参加した。

プログラムでは、主に日本の公民館事業の経験を踏まえ、CLC 事業の推進に向けて、意見交換および将来の地域協力強化の方策について議論が行なわれた。またプログラムはワークショップ形式により実施され、発表や講義だけでなく、公民館を訪問し、活動の視察、実際の活動への参加、事業担当者や学習者との意見交換、少人数での戦略、計画作成の議論、さらに、松本市役所の公民館担当者、松本大学の取り組みなど、公民館活動を支える行政、専門機関の役割についても議論を行なった。さらに、ワークショップでの意見交換、議論を踏まえ、松本市との共催により、公開シンポジウムを開催し、教育関係者だけでなく市民の方々にも、アジアにおける CLC 事業の現状と課題、CLC 事業と公民館のかかわりについて、今後の交流や協力の可能性などについて、広く会議の内容を周知した。具体的な内容は以下の通りである。

- ・ オープニングセッション（プログラムの概要説明と交流）
- ・ 日本における生涯学習と公民館活動の現状に関する概要説明
- ・ 松本市役所における松本市の公民館活動の概要説明と討論
- ・ 参加国の CLC の現状の紹介と討論
- ・ フィールドビジットによる公民館活動の視察・関係者との討論
- ・ フィールドビジット等の総括と課題等の討論
- ・ 各国における CLC へのフィードバックとアクションプラン作成
- ・ 国際的なネットワーク構築の可能性の検討
- ・ 公開シンポジウムによる全体討議とグループディスカッション
- ・ シンポジウム会場における各国の紹介ブースの設置と交流
- ・ 蕎麦打ち体験・松本ぼんぼん等を通じた市民・学生との交流
- ・ 横浜市における公民館の視察

4) ワークショップの成果

このワークショップによって、海外からの参加者の日本の生涯学習及び公民館活動の現状と課題への理解、一方で国内からの参加者の各国の CLC の現状と課題の理解が深まるとともに、日本や松本等の公民館活動の成果が共有され、各国においてフィードバックされ、CLC 事業が進展した。また、各地の公民館関係者との交流を通じて国際的な CLC 事業を推進するネットワークが構築された。また、特に国外からの参加者による松本及び横浜の公民館活動に関する外からの分析・評価がなされたことで、日本における今後の公民館活動のあり方にも参考となった。

さらに、このワークショップは、大都市以外での国際会議の開催を通じた地域の国際化の進展に寄与し、開催を通じた行政、大学、市民などの協働のネットワークの構築にも貢献した。さらに、本学学生にとっても国際的な視野を育成する機会となった。

5) ワークショップのフォローアップ

ワークショップを総括し、その成果の活用を考えることを目的として、公開講座「公民館・再発見 ～ 松本・塩尻地域の公民館を世界はどう見たか～コミュニティづくりに果たす公民館の役割」が、平成18年10月28日に本学で開催された。これは、ワークショップを通して、世界から注目された松本・塩尻地域の公民館について、その活動を振り返るとともに、これからのコミュニティづくりにおける公民館の役割とさらなる可能性について考えることを目的とし、第一部としてワークショップの報告、第二部としてシンポジウムが行なわれた。報告では、全体の報告に加えて、フィールドビジットについて、実際に受け入れた各公民館長、職員、関係者が報告を行なった。また第二部では、パネルディスカッション「未来を創る公民館～ワークショップの成果をどう活かすか」として、パネリストに小荒井理恵氏（JICA 国際協力機構）、筒井敏男氏（松本市中上西町会長）、柳澤良子氏（松本市安原地区公民館長）、三村伊津子氏（松本市公民館運営審議委員・町内公民館館長会女性部長）を迎え、本学の白戸洋研究員をコーディネーターとして、ワークショップを今後の公民館活動や国際協力活動にどう結び付けていくかについて討論を行なった。

またワークショップについての最終報告書として、「Final Report Asia-Pacific Regional Workshop on Community Development through CLC Linkages and Network」をとりまとめ、関係機関に配布した。

さらにワークショップの成果を踏まえて、若者の公民館への参画というテーマについて、シンポジウムの開催やモデル事業を通じてネットワークを構築し成果をとりまとめる「若者の公民館への参画とネットワークづくり」をユネスコの支援によって2007年度に取り組む予定である。

最後に、ユネスコ国際会議開催松本大学事務局として松本大学総合経営学部一期生の赤羽明恵、土屋真一両卒業生が APPEL や業者との交渉に当たり、準備段階から国際会議の当日は言うに及ばず、報告作成まで大活躍であった。卒業生の仕事振りに頼もしさを感じながら、共に協力して参加者一同が満足行く形でプロジェクトを成し遂げたことの幸せを痛感している。また、松本大学総務課からプロジェクトに参加した腰原季都子、松田千壽子両氏を代表とする松本大学事務局一同のバックアップ体制、観光ポスタリティ学科の全教員の協力に心より感謝している。